

【海外の教育事情】

イギリスの高等教育事情

—学位の名称とレベル—

Qualification Levels in British Higher Education

筑波大学大学研究センター准教授 田中 正弘

TANAKA Masahiro

(RCUS, University of Tsukuba)

キーワード：学位，留学，イギリス

はじめに

イギリスの高等教育（特に大学）は、世界中から留学生を惹きつけられる魅力を有する。しかし、イギリスの大学には日本人にとって聞き慣れない名称の学位が数多く存在する。それゆえ留学生は、自分が得られる学位のレベルが修士なのか博士なのかで混乱するなど、進学したい学位プログラムを選択する際に、そのプログラムで取得できる学位のレベルが自分の希望に本当に合致しているのか、しばしば判断に迷うのである。

そこで本稿は、イギリスの高等教育機関、特に大学が授与する学位について、基本的な情報を提供したい。具体的には、学位の名称とレベルを留学先の決定に役立つ形で整理してみたい。次節では、学位の構造、およびその名称とレベルの説明を行う。第3節では、オックスフォード大学とエディンバラ大学を事例として、提供されている学位の名称とレベルを紹介したい。最後のまとめの節では、イギリスに留学する際の注意点を述べる。

学位の構造、およびその名称とレベル

イギリスの学位は、基本的に以下の形で表記される。

○○ of △△ in ×× with ◎◎

〇〇に入るのが学位のレベルで通常、Bachelor（学士）、Master（修士）、Doctor（博士）の三種類がある。△△には、文系理系などの学問の大まかな分類（Arts や Science）、または学問分野（Engineering など）が入るのが一般的である。△△に Arts や Science が入る場合は、××により詳細な学問分野（Education など）が入る。With の後に記載されるのは通常、Honours や Distinction など、成績が優秀であったことを示すものである。一例として、ヨーク大学考古学科のプログラム（学士課程）で得られる学位（2020-21 年度）を以下に提示したい。

- ◇ Bachelor of Arts in Archaeology
- ◇ Bachelor of Arts in Archaeology and Heritage
- ◇ Bachelor of Arts in Historical Archaeology
- ◇ Bachelor of Science in Archaeology
- ◇ Bachelor of Science in Bioarchaeology

なお、修了試験の結果で Third Class 以上の成績を収めれば、with Honours が付加される。

上記に示したとおり、ヨーク大学考古学科で得られる学位（学士レベル）は5つある。上の3つが文系の学位であり、下の2つが理系の学位である。すなわち、同じ考古学でも、分析のアプローチが文理で異なることを、学位の名称が教えてくれるといえる。それから、in の後の名称が異なるのは、どの視点で考古学を学ぶかが異なるためである。例えば、Archaeology and Heritage と書かれている学位プログラムでは、遺産（Heritage）のフィールドワークなどを土台として考古学を学修できる。同様に、Bioarchaeology（生物考古学）と書かれている学位プログラムでは、生物学の知識を用いて考古学を学ぶこととなる。

ヨーク大学考古学科の例のように、同じ学問分野であっても、分析のアプローチが異なるために、多様な学位プログラムが設けられていることが多い。このため、進学先を決める際には、どの大学、どの学問分野だけでなく、どの学位プログラムにするかも、どの分析アプローチを好むかの観点から適切に選択しなければならない。ただし、転プログラム（転学科）は比較的容易である。ヨーク大学考古学科でも、1年次の学習内容は5つの学位プログラムで共通しているため、転プログラムの壁は（2年次進級時までなら）それほど厚くない。

ヨーク大学考古学科の事例を参照すると、得られる学位の名称とレベルを確認すれば、進学すべき学位プログラムはより適切に選択できると指摘したくなる。しかし現実には、特に伝統的な大学では、学位の名称とレベルの確認だけでは適切な進学希望先の決定が難しい事例が多々見られる。そこで、伝統的な大学であるオックスフォード大学とエディンバラ大学で提供されている（代表的な）学位の

名称とレベルを、次節で紹介したい。

オックスフォード大学とエディンバラ大学の事例

オックスフォード大学とエディンバラ大学で授与される学位をレベル別（学士，修士，博士）に、4つの代表的な学問分野（法学，教育学，医学，工学）ごとに（主要な学位に絞って）表記したのが、表1である。

表1：オックスフォード大学とエディンバラ大学の学位（2020-21）

分野	オックスフォード大学	エディンバラ大学
法学	学士	BA in Jurisprudence
	修士 (課程 修士)	Bachelor of Civil Law (BCL) Magister Juris (MJur) MSc in Law and Finance MSc in Criminology and Criminal Justice
	修士 (研究 修士)	MPhil in Law MPhil in Criminology MPhil in Socio-Legal Research
	博士	DPhil in Law DPhil in Criminology DPhil in Socio-Legal Studies
教育学	学士	
	修士	MSc in Education
	博士	DPhil in Education
医学	学士	Bachelor of Medicine (BM) Bachelor of Surgery (BCh)
	修士	MSc in Medical Education MSc in Surgical Science and Practice
	博士	DPhil in Clinical Medicine DPhil in Medical Sciences
工学	学士	
	修士	Master of Engineering (MEng) MSc in Engineering Science
	博士	DPhil in Engineering Science

出典：オックスフォード大学とエディンバラ大学のHPを参照し、執筆者が作成した。

略語：BA: Bachelor of Arts, MA: Master of Arts, MPhil: Master of Philosophy, DPhil: Doctor of Philosophy, MSc: Master of Science, PhD: Doctor of Philosophy

表1に示されているとおり、日本でなじみの薄い名称の学位がいくつか見られる。これらについて、一つずつ解説したい。

① Bachelor of Civil Law (BCL)

Bachelor of Civil Law (BCL)は、オックスフォード大学の法学分野で授与される学位である。この学位はBachelorという名称から学士レベルだと誤解されやすいが、修士レベルの（修士と同じ学位のレベルではあるが、修士ではない）学位である。BCLを授与する学位プログラムの主目的は、英米法

(コモンロー)を学んだ(法学士を既に有する)学生に大陸法(シビルロー)を教授することである。プログラムの修業年限は10ヶ月と短く、大陸法に興味のある学士課程卒業生を対象とするエクステンションプログラムに近い。

② Magister Juris (MJur)

Magister Juris (MJur)という聞き慣れない学位は、上記のBCLと同様に、オックスフォード大学の法学分野で授与される修士レベルの学位である。MJurを授与する学位プログラムの主な目的は、BCLとは逆に、大陸法(シビルロー)を修得した(法学士を既に有する)学生に英米法(コモンロー)を教授することである。修業年限は10ヶ月で、BCLとの差はない。

③ MPhil

Master of Philosophy (MPhil)という学位は、オックスフォード大学やエディンバラ大学以外にも、イギリスの研究大学(表1では法学分野のみに見られるが、文系理系を問わず、多くの学問分野)で広く授与される一般的な学位である。その名称から修士の学位だと推察できるが、MPhilを授与する学位プログラムの大多数は入学要件に修士の学位を要求することや、プログラムの内容がPhDとほぼ同一(研究活動のみの課程)であることから、博士と混同されやすい学位である。

ではなぜ、MPhilという学位がイギリスに存在しているのか。それは主に右記三つの理由による:

(1) 博士レベルの研究を短い期間(2年以内)で小規模に実施したい学生を受け入れるため、(2) PhDプログラムに入学するには学力が足りない(と思われる)学生を博士レベルで受け入れるため、(3) PhDを授与する学位プログラムに所属する学生が研究を途中で断念した際の「残念賞」として、博士よりレベルの低い学位を授与するため。(2)と(3)の理由について、下記で補足説明をしたい。

(2)の「PhDプログラムに入学するには学力が足りない(と思われる)学生」とは、一例として、外国の大学で修士の学位を取得した学生のことを意味する。事実、日本の大学の修士課程(博士前期課程)を修了しても、イギリスのPhDプログラムに入学することは通常認められない(なお、日本の大学の指導教員とイギリスの大学の指導教員との間の信頼関係が強い場合に、例外的に直接の入学が認められることもある)。従って、そのような学生はMPhilプログラムでいったん受け入れてもらい、その後PhDプログラムで学ぶだけの知力体力があることを証明できれば、途中でPhDプログラムに転入するという進学ルートを進むことになる(ちなみに、転入した場合でも、MPhilプログラムに進学してから最短3年でPhDプログラムを修了できる)。

(3)の「残念賞」とは、博士論文の作成を途中で断念しても、それまでに作成した論文を小さくまとめ、口頭試問を突破できれば、MPhilの学位が授与されることを意味する。この場合のMPhilの取得は、日本の大学の博士(後期)課程を単位取得退学したという響きに近い。なお、MPhilの学位を

得るためには、プログラムに最低2年間在籍しなければならない。

④ MSc in Education

教育学は通常、文系（社会科学の分野）に分類される。よって、オックスフォード大学が授与する教育学の学位の名称が Master of Science (MSc) であることは、不可思議である。学位の名称から、オックスフォード大学の教育学は理系の分析アプローチを採用していると想像できるが、この想像は正しくない。オックスフォード大学で、教育学に限らず文系の修士の学位の名称に MSc が多いのは、オックスフォード大学の Bachelor of Arts (BA) を授与する学位プログラム入学から一定期間（概ね 21 学期：7 年）経過後に所定の手続きを済ませた者に Master of Arts (MA) の「称号」（注：学位ではない）を与えるという、伝統的な制度があるためである。なお、この伝統的な制度は、ケンブリッジ大学にもある。

⑤ Bachelor of Medicine (BM)

イギリスの大学の医学部（医学科）を卒業すると、学士レベルの Bachelor of Medicine (BM) や Bachelor of Surgery (BCh) が授与される。この学位のレベルは、日本の大学の医学部と同じなので、日本人にとって違和感はないと思われる。とはいえ、通常の学士課程と比較して医学部の修業年限は 6 年と長いにもかかわらず、学士の学位しか与えられないのは世界的に珍しいといえる。事実、欧州大陸のほとんどの国で、大学の医学部は学士修士一貫教育課程に位置づけられているため、卒業時に授与される学位は Master of Medicine (MM) となる（ちなみに、4 年で卒業することも可能で、その場合は BM や BCh が与えられる）。

⑥ Master of Engineering (MEng)

Master of Engineering (MEng) を授与する学位プログラムは、学士修士一貫教育課程である。イギリスの場合、学士課程の修業年限は通常 3 年、修士課程の修業年限は約 1～2 年であるので、MEng を授与する学位プログラムの修業年限は、一般的に 3 年 + 1 年の計 4 年となる。なお、3 年で卒業することも認められており、その場合は Bachelor of Engineering (BEng) が与えられる。

⑦ MA in Learning in Communities

MA in Learning in Communities の学位は、エディンバラ大学の教育分野の学位プログラムで授与される。この学位プログラムは上記の MEng のプログラムと同じく、4 年間（3 年 + 1 年）の学士修士一貫教育課程である。とはいえ、エディンバラ大学を含めたスコットランドの大学の修業年限は通常 4 年（イギリスの他の地域は 3 年）であるため、ほぼ全ての学生が修士の学位を得て卒業する。なお、

修了試験の成績が良ければ with Honours となり、学位の表記は MA (Hons) となる。3年次での卒業も選択可能であるが、その場合は with Ordinary となって、学位の表記は BA (Ord) となる。この構図は、スコットランドでは、教育学以外の文系分野にも概ね当てはまる。

表1には記載されていないが、法曹を志す学生が進学する大学院レベルのプログラム（「バリスター養成コース」(Bar courses) や「ソリシター養成コース」(Legal Practice Course)）では学位を授与していない。

以上のように、イギリスの（特に伝統）大学への進学を希望する場合は、大学ごとに独自の名称を学位に付していることがあるので、学位をめぐる慣例やその発展経緯を含めて理解しておかないと、学位の名称やレベルを確認するだけでは、適切に進学希望先を決定できない恐れが生じる。加えて、日本学生支援機構（JASSO）などの奨学金に応募する際に、進学したいプログラムで取得できる学位のレベルが日本の大学の学士、修士、博士のいずれに当てはまるのかを説明する必要がある。従ってこの点からも、学位をめぐる慣例やその発展経緯の理解が欠かせない。

このことを理解した上で、イギリスの大学に留学する際の注意点を次のまとめの節で述べたい。

イギリスの大学に留学する際の注意点

イギリスの大学に留学する際に、進学を希望する学位プログラムが授与する学位の名称とレベルを確認することは重要である。しかし、仮に進学希望先を適切に決定できたとしても、日本の高校からイギリスの大学の学士課程に、日本の学士課程からイギリスの修士（博士前期）課程に、日本の修士課程からイギリスの博士（後期）課程に、そのまま進学することは認められないことが多い。例えば、日本の高校（国際バカロレアの認定校は除く）からイギリスの学士課程に進学することは、Aレベル試験でイギリス人と同様に高い成績を収めることを要求されるため、事実上、不可能といってよい。このため、希望する学位プログラムに進学するための準備コース（1年程度）が留学生のために開設されていることが多い。

準備コースに進むことは不本意かもしれない。あるいは、遠回りのように聞こえるかもしれない。しかしながら、筆者（田中正弘）の個人的な経験から述べると、準備コースへ進むことは、その後の人生の糧になり得ると思われる。というのも、準備コースで学ぶ内容（専門分野の知識だけでなく、アカデミックライティングやディベートなど）は、イギリスの大学で学修する上で必要不可欠の能力であるとともに、社会に出てから大いに役立つ能力だからである。学術的に「書く」、「話す」能力を修得することは、あなたにとって社会で生き抜くための強力な武器となることだろう。

【備考】本稿の執筆にあたって、下記のHPを参照した。

University of Edinburgh, Undergraduate Courses,

<https://www.ed.ac.uk/studying/undergraduate> (アクセス日 : 2020/12/27)

University of Edinburgh, Postgraduate Courses,

<https://www.ed.ac.uk/studying/postgraduate> (アクセス日 : 2020/12/27)

University of Oxford, Undergraduate Courses,

<https://www.ox.ac.uk/admissions/undergraduate/courses> (アクセス日 : 2020/12/27)

University of Oxford, Postgraduate Courses,

<https://www.ox.ac.uk/admissions/graduate/courses> (アクセス日 : 2020/12/27)

University of York, Department of Archaeology,

<https://www.york.ac.uk/archaeology/> (アクセス日 : 2020/12/27)